

東北地方 1か月予報

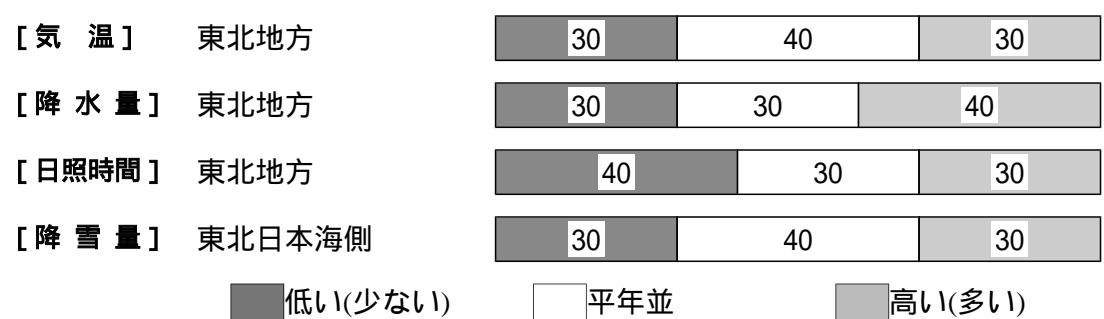
(11月22日から12月21日までの天候見通し)

平成20年11月21日
仙台管区気象台発表

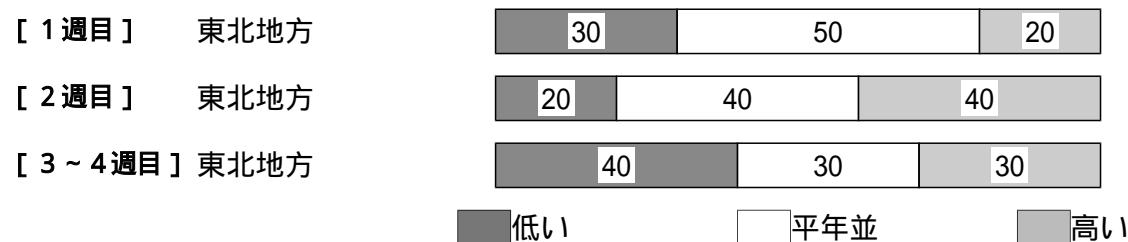
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側は平年に比べて曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。
週別の気温は、1週目は平年並の確率が50%、2週目は平年並または高い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 11月22日(土) ~ 12月21日(日)
1週目 : 11月22日(土) ~ 11月28日(金)
2週目 : 11月29日(土) ~ 12月5日(金)
3~4週目 : 12月6日(土) ~ 12月19日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は11月28日
3か月予報: 11月25日(火) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	降雪量(cm)	気温()		
					1週目	2週目	3～4週目
青森	2.6	143.3	59.2	125	4.6	3.3	1.6
深浦	3.7	139.4	39.1	53	5.6	4.4	2.7
むつ	2.5	101.4	76.5	77	4.5	3.2	1.5
八戸	2.9	43.9	125.1	32	4.8	3.6	1.9
秋田	4.0	174.0	51.3	58	5.8	4.7	3.0
盛岡	2.0	73.8	100.8	50	3.9	2.7	1.1
大船渡	4.7	54.8	133.0	0	6.5	5.4	3.8
宮古	4.3	53.5	144.9	8	6.1	4.9	3.3
仙台	5.6	31.8	138.0	2	7.3	6.2	4.6
石巻	4.6	31.9	147.2	0	6.5	5.3	3.7
山形	3.6	79.1	83.2	64	5.3	4.3	2.7
新庄	2.7	207.1	39.0	119	4.5	3.4	1.7
酒田	5.5	218.9	47.6	45	7.3	6.1	4.6
福島	5.4	37.4	125.3	20	7.1	6.0	4.5
若松	3.2	81.2	72.5	64	5.0	3.8	2.3
白河	4.0	37.1	151.5	7	5.7	4.6	3.1
小名浜	7.3	50.5	173.9	0	9.0	7.8	6.4

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.5	81～99	98～104	65～109
東北日本海側	-0.4～+0.5	91～107	92～108	74～114
東北太平洋側	-0.4～+0.5	67～101	97～105	55～104

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.6～+0.6	-0.7～+0.7	-0.5～+0.7
東北日本海側	-0.7～+0.6	-0.8～+0.7	-0.5～+0.6
東北太平洋側	-0.6～+0.6	-0.7～+0.7	-0.4～+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成20年11月21日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(11月22日～12月21日)：

東北日本海側は平年に比べて曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

1週目(11月22日～11月28日)：

気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側では期間のはじめと中頃に晴れの日もある見込みです。

平均気温は平年並の確率が50%です。

2週目(11月29日～12月5日)：

気圧の谷が数日の周期で通過し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

3～4週目(12月6日～12月19日)：

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。一時強い寒気が南下し、冬型の気圧配置が強まる見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

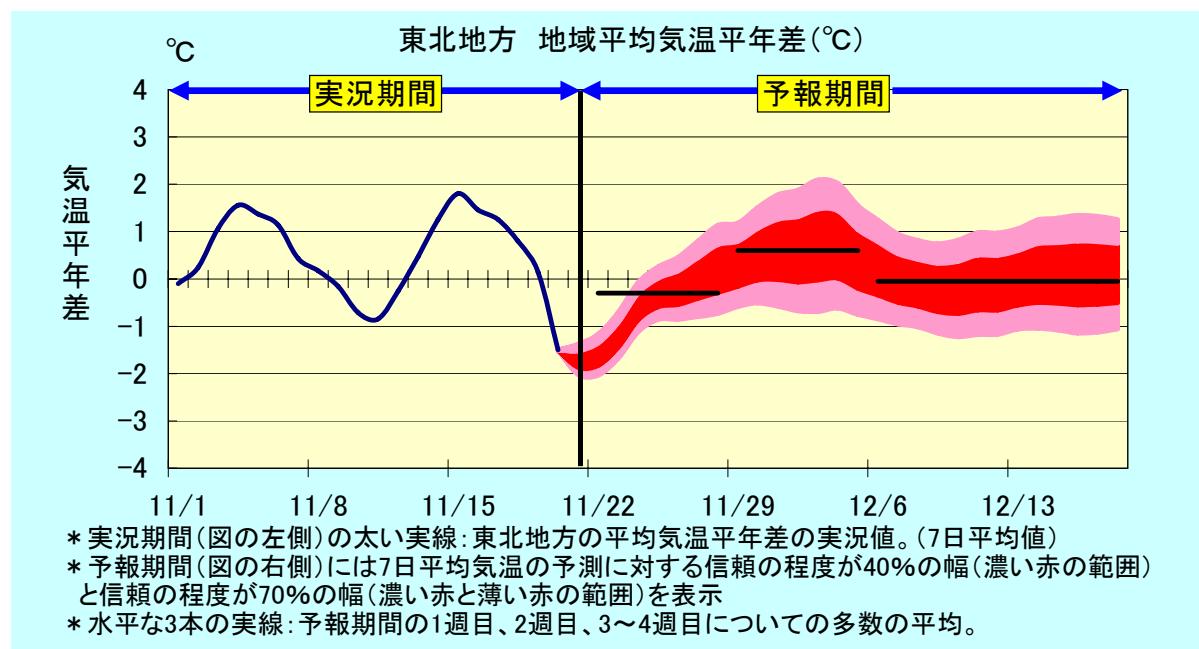
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	5.3日	1.7日	1.4日	2.2日
東北太平洋側	16.6日	4.1日	4.2日	8.3日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目、2週目、3～4週目とも平年付近の予想となっている。

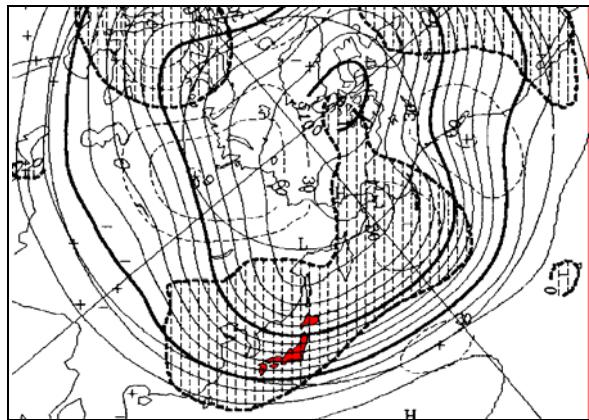


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均: 北極付近はおむね正偏差で北極振動は寒気放出傾向。高緯度帶では東経90度付近が正偏差、中国大陸から日本付近が負偏差。日本の西側が気圧の谷となっていて、寒気の影響は西日本中心となる見込み。

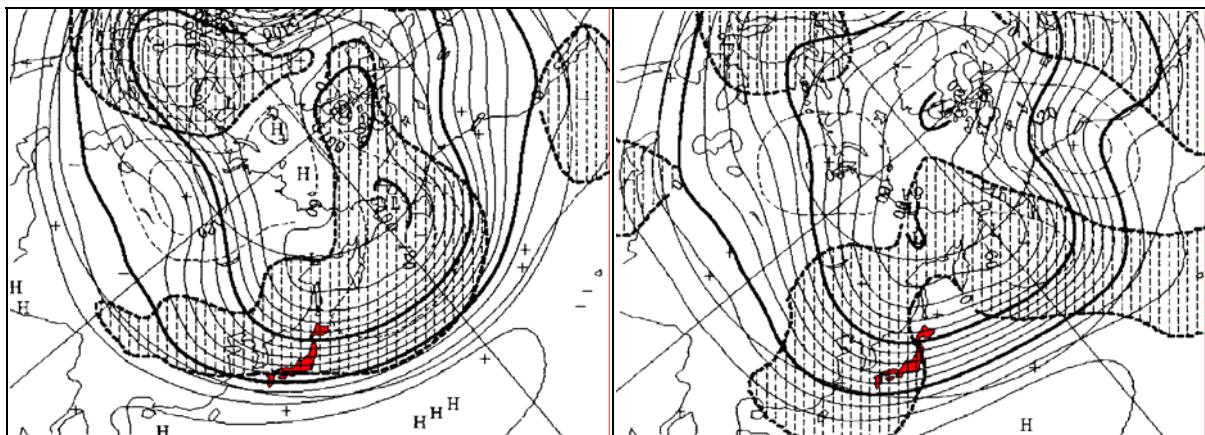
1週目: 高緯度帶でヨーロッパからの波列が見られ、日本付近は広く負偏差。日本付近の偏西風の蛇行は小さく、低気圧や気圧の谷が短い周期で通過する見込み。

2週目: 1週目に見られた高緯度帶の波列に加え、亜熱帯ジェット沿いの波列も見られる。日本付近は西谷傾向で、東北地方では寒気の影響は1週目に比べて小さい見込み。下層の気温予想図では、東北地方は正偏差（図略）。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図

2週目平均 500hPa 予想天気図

実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

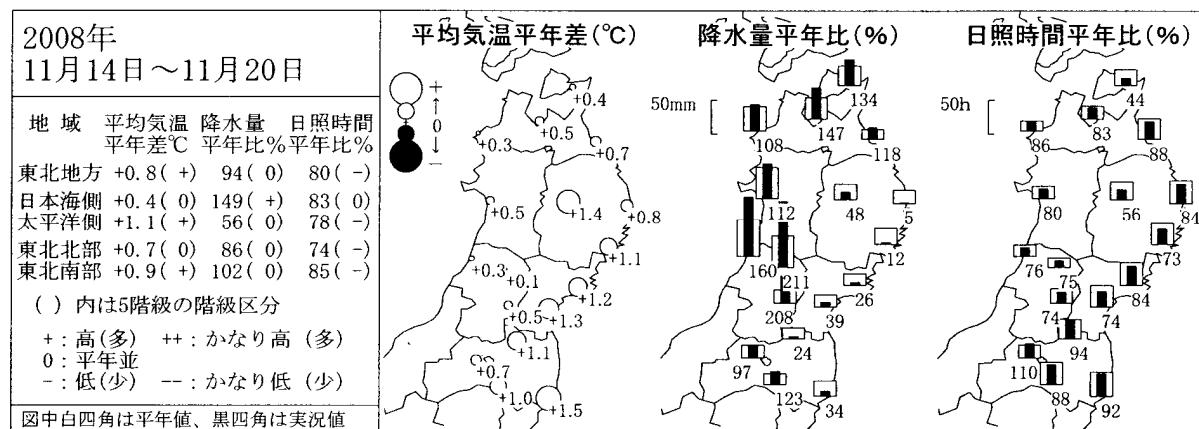
陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する

白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (11月14日～11月20日) の天候の経過

14日と15日は、高気圧におおわれて晴れるところが多かったが。その後は、低気圧や気圧の谷、冬型の気圧配置の影響により、曇りや雪または雨の日が多くなった。期間の中頃までは南からの暖かい空気が入り気温の高い日が多くなったが、期間の終わりには東北地方の上空に真冬並みの寒気が入り、気温は低くなかった。この寒気の影響で19日から20日にかけては東北北部や東北日本海側の山沿いを中心に大雪となったところがあり、平地でも積雪となつた。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）